

地域交流活動の一環としての乗馬

宮 林 文 代

(富山県立富山養護学校)

1. 学校概要

本校は肢体不自由養護学校で富山市の西部に位置し、田園地帯でありながらも市の中心部へは車で15分程度という、恵まれた立地条件にある。また、付近には山や大木のある神社などもあり、自然環境にも恵まれている。

平成13年度の在籍数は、小学部32名、中学部15名、高等部62名の計109名、うち訪問教育を受けている児童生徒は12名である。

学校教育目標は「児童生徒の障害の状態や程度に応じて、能力や個性などに適った教育を行い、社会を構成する一員として社会の諸活動に参加し、自己実現を育成する。」となっている。

2. 実施経緯

平成11・12年度に文部省(現文部科学省)から「交流教育地域推進事業」の指定を受け、その一環として地域の企業である(朝日乗馬倶楽部)との交流、また動物との交流を図ることとなった。

これは乗馬のリハビリ効果の記事を福祉新聞「太陽の顔」で読んだことにもよる。実施にあたっては、兵庫県の障害者乗馬協会に問い合わせをし、東京障害者乗馬協会(徳田實氏や渡辺 廣人氏など)から主な情報を得て研修に赴き、実施に活かした。

3. 教育課程への位置づけ

小学部	平成11～13年度	特別活動
中学部	平成11～13年度	特別活動
高等部	平成11～12年度	特別活動
	平成13年度	総合的な学習の時間

4. 年間計画

全校児童生徒が全員年1回の体験乗馬をするという活動なので、各学期ごとに朝日乗馬倶楽部と連絡の上、実施した。

—平成13年度の体験乗馬—

実施日(曜日)	学 部	時 間 帯	人数
6月28日(木)	高等部	10:00～11:20	20名
9月6日(木)	中学部	〃	15名
9月14日(金)	小学部	〃	19名
10月11日(木)	高等部	〃	28名
10月25日(木)	小学部	〃	14名
11月8日(木)	高等部	〃	15名

5. 実施体制

(1) 乗馬倶楽部のスタッフ 3名程度 乗馬指導

使用馬はサラブレッド1頭、クォーターホース1頭、道産子1頭

(2) 各学部ごとの教員

進行、サイドウォーカー、リーダー、上下馬指導、保健安全指導、記録、児童生徒介助、準備体操、事前・事後学習指導、乗馬倶楽部との打ち合わせ、職員研修、ボランティアとの打ち合わせ、馬場までの配車計画等を担当

(3) ボランティア 2名～10数名(その時によって異なる)

一般ボランティア(募集、乗馬倶楽部員、ライオンズクラブメンバー等による)

(4) 障害者乗馬インストラクター

平成12年度には、専門のインストラクターを招いて指導にあたっていただく。年1回の体験乗馬であることを考慮し、児童生徒のQOL向上のための楽しむ乗馬が本校にはふさわしいと考え、障害者乗馬を行っている団体である「RDA」所属の方を講師として招くこととした。

・原口 俊彦氏 長野県北佐久郡春日町馬事公苑で障害者乗馬を指導(当時)

・太田恵美子氏 神奈川県横浜市三ツ沢公園にて障害者乗馬を指導

6. 指導計画、指導記録、評価について

4月上旬(1学期) 職員の乗馬研修

9月上旬(2学期) 〃

前日(当日) 事前学習 (交流について、乗馬の注意
やマナー、乗馬の効用等) 健康観察
乗馬 児童生徒の目標に応じた乗馬
乗馬後 事後指導 (感想、評価、礼状・ビデオ
視聴など)
記録 写真、ビデオ、生徒の感想、自己評価
(別紙1)などを担当で保管
健康観察はバイタルチェック表(別
紙2)を用いたが、必要な児童生徒
(重度)のみ行い、あとの児童生徒は
通常の健康観察を行った。
評価 生徒の担当者が、記録を元に総合的な
学習の時間の評価として行う。
今年度は自己評価表作成(同じく別
紙1)

(別紙1)
今日の学習をふりかえろう。

班 年 級 氏名

○・△・×で記入しよう。 他は反省点など自由に書いてください。

番号	内 容	はい	いいえ	その他
1	体調はよかったですか。			
2	準備体操をしっかりとしましたか。			
3	朝日乗馬クラブの人にあいさつできまし たか。			
4	たてがみと手綱を左手にもって乗れまし たか。			
5	あふみに左足をしっかりとかけて乗れまし たか。			
6	右足はうまくまわせましたか。			
7	手綱は正しくもてましたか。			
8	出発の合図はできましたか。 (馬の腹をかかとでける、「はい」と合図 するなど)			
9	手綱を右や左に引いて馬の頭の向きを変 えることができましたか。			
10	手綱を引いて馬を止めることができました か。			
11	遠くの方を見て乗れましたか。			
12	サイドウオーカーの人とお話できまし たか。			
13	スムーズに下りることができましたか。			
14	乗馬、下馬の時にサイドウオーカーの人 やリーダーの人、そして馬にあいさつでき ましたか。			
15	今日のサイドウオーカーの人の名前を知 っていますか。			名前
16	リーダーの人の名前を知っていますか。 (馬を引く人)			名前
17	乗った馬の名前を覚えましたか。			名前
18	友達の乗馬をしっかり見て応援してあげ ましたか。			
19	楽しく乗馬できましたか。			

感想や、手紙などを書きましょう!

(別紙2)

乗馬体験かるて

A票

B票

学部	学年	氏 名	男・女
障 害 名			
項 目	児 童 生 徒 の 実 態		
移動方法	独歩 (安定 不安定) 車椅子 (自立 要介助)		
坐位姿勢	安定 不安定		
首のすわり	安定 不安定		
開排制限 (股の開き具合)	無 有		
てんかん	無 有		
合併症	無 有		
バイ タル サイ ン	脈拍	平常時	回/分
	体温	平常時	度
	呼吸数	平常時	回/分
	血圧	平常時	~
意識レベル	平常時		

※意識レベルについては、刺激に対する反応について記入(有・無でも良い)。

乗馬体験日： 月 日 ()
乗馬時間： 分 (周)

項 目	様 子	特 記 事 項	備 考 (その他)
朝 食 事	食べた 食べない		
	の 排 泄	出た 出ない	
	様 睡 眠	よく寝た 寝ていない	
子 気 分	良い 普通 悪い		

観 察 項 目	出発前 (:)	直前 (:)	直後 (:)	帰校後 (:)
脈 拍	回/分	回/分	回/分	回/分
体 温	度	度	度	度
呼 吸 数	回/分	回/分	回/分	回/分
血 圧	~	~	~	~
意 識 レベル				
顔 色				
体 の 緊 張				
発 汗 状 態				

特記事項 (児童生徒の様子や変容等)

7. 活動の内容

- 1年目 乗馬を楽しむ、馬に親しむ
- 2年目 遊具やゲーム形式を用いた乗馬
- 3年目 馬のコントロールを目標とした乗馬四角い馬場を出て、外乗を楽しむ

＜実施に関わる経済的な根拠＞

富山セントラルライオンズクラブからの援助による。
2,000円(一人分)×児童生徒数 約20万円

8. 成 果

股関節の硬直の緩和、痰のきれがよくなった、乗馬時の涎の軽減、動物への接触ができなかった子が馬に乗って成就感を味わう、などの効果のあった児童生徒も見られた。

9. 実施上の課題

- (1) 学校週5日制に伴い行事が削減される傾向にあり、本内容の実施も例外ではない。
- (2) 実施には経費が伴い、資金の裏づけが必要である。
- (3) 体験乗馬からの発展として、リハビリ効果を期待した放課後の訓練乗馬を行うことを企画したが、実施にあたるボランティアやスタッフが不足しているため、継続的な活動が難しい。
- (4) 重度の障害がある児童生徒の場合、どのように乗馬をのさせたらよいかについて配慮事項と具体的な方法について検討が必要である。
- (5) できるだけ多くの時間乗せてやりたいが、限られた時間内での乗馬なので限界がある。



10. 今後の見通し

富山セントラルライオンズクラブからの資金援助を得て、体験乗馬(年1回全校児童生徒が乗馬を体験する)の実施

は可能である。また、特別活動の中で今後も行っていく予定である。

11. そ の 他

7で述べた内容の他、放課後の時間に希望者への週1回の機能訓練乗馬を行っている。寄宿舎生以外は保護者同伴。寄宿舎生については学校の教員や高等部生徒のボランティアがサイドウォーカーを務める。

【 資 料 】

1. 施設・団体の概要

名 称 朝日乗馬倶楽部
所在地 富山県婦負郡婦中町友坂315
(TEL 076-469-5755)
代 表 社長 竹田三樹夫
スタッフ 3名
馬 場 (ナイター施設完備)
芝馬場 (35×120m 1面)
角馬場 (25×45m 1面)
トレーニング・トラック (全周450m 1面)
丸馬場 (直径17m 1面)
丸馬場 (直径15m 1面)
屋内馬場 (22×40m 1面)
厩舎 (620㎡) 所有馬24頭収容
仮設厩舎 20頭収容(競技用)
その他 ウォーキングマシン (4頭) (直径15m 1基)
クラブハウス (2階建 1258㎡ ロビー、ポロショップコーナー、ティーラウンジ、乗馬教室、インストラクタールーム、事務室、ロッカールーム、更衣室、浴室、プレジデントルーム、宿泊施設)

2. 施設における障害のある子ども等への取り組み

以前、知的障害を有する小6の子(親が会員)が親と一緒に乗馬を始めたところ、最初は座ることもままならなかったのに、ひとりで乗馬ができるようになり、それにつれて本人の状態がよくなっていくのがわかった。高1くらいまで継続していたのでその経過から効果が伺えた。

また、不登校傾向の中学生が5人、それぞれ乗馬にくるようになり、2年くらいで不登校が解消して(平日来ていたのが、だんだん土日にくるようになった)受検に合格したとの報告も受け、乗馬が運動機能だけでなく、心のケアにも効果があることに気づく。

このような折りに富山養護学校からの交流の申し出を受け、障害者乗馬に本格的に取り組むこととなった。

3. 施設において工夫してきた点

- (1) 障害者乗馬における馬匹の選択と育成（周囲の状況変化にも対応できる落ち着いた馬、安定した動きのできる馬に調教する）
- (2) 補助具（落馬防止のための足首固定や、首の保護をするヘッドレストの提案など）、乗せ方（首の据わらない子とのタンデム時、顎をひいて額を軽く抑え、できるだ

け上肢をまっすぐにさせて馬の動きを脊椎に伝えるようにするなど）

4. 施設における課題

- (1) 段階的運動療法（常足から速足への移行）としての乗馬の補助の方法を考える。
- (2) 心のケアとしての乗馬は自由に強制しない乗せ方にしたいが、飽きさせずに乗せるにはどうすればよいか。